

## 学校登山の現状と今後の山岳総合センターの取り組み

長野県山岳総合センター

### はじめに

長野県山岳総合センター（以下、山岳センター）は、県内の中学校における学校登山の実態調査を行うとともに、学校登山のもつ教育的意義を考えるために、学校登山における生徒の意識調査（※7 ページ参照）を行っている。

この調査を通して、生徒達は、日頃の学校生活を共にしている友達と一緒に登山をすることを通して、普段の生活では学べないことを学んでいるとともに、自己肯定感の向上にも結び付いているということがわかった。

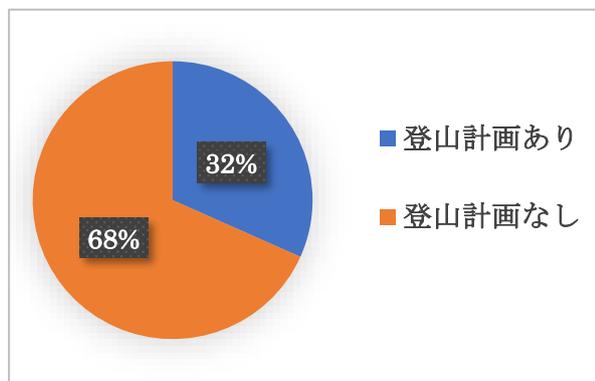
今年度は、

- ①長野県内の中学校における、学校行事として実施する登山の実態を知る
  - ②登山を実施する学校に対して、山岳センターがどのような支援が可能なのかを知る
- この2点を目的に、長野県内の中学校を対象にアンケート調査を実施した。

調査対象校は、県内の県市町村立中学校 183 校。すべての学校より回答をいただき、集計した結果が以下の通りであった。

### アンケート結果

#### 1. 学校登山の計画の有無について



全 183 校中、年度当初に学校登山を計画した学校は 58 校、32%。学校登山を計画しなかった学校は、125 校、68%だった。

尚、学校登山を計画した学校の中には、雨天等の理由で登山を中止した学校も含まれる。

## 2. 目的とした山はどこだったか

学校登山を計画した 58 校が目的とした山は右記の通り。尚、八方尾根は、唐松岳だけでなく、八方池と丸山ケルンも含む。

その他、登っている山が一枚だけだった山は、下記の 16 の山だった。

燕岳・常念岳・仙丈ヶ岳・聖山・四阿山・車山  
大渚山・毛無山・入笠山・苗場山・飯縄山  
ニュー・傘山・御池山・風越山・岳沢(上高地から)

複数校が登っている山名	校数
木曾駒ヶ岳(西駒ヶ岳)	12
八方尾根	9
乗鞍岳	7
(八ヶ岳)北横岳	5
(八ヶ岳)硫黄岳・根石岳	5
蓼科山	2
飯盛山	2

## 3. 日帰り登山または、山小屋泊登山どちらだったか

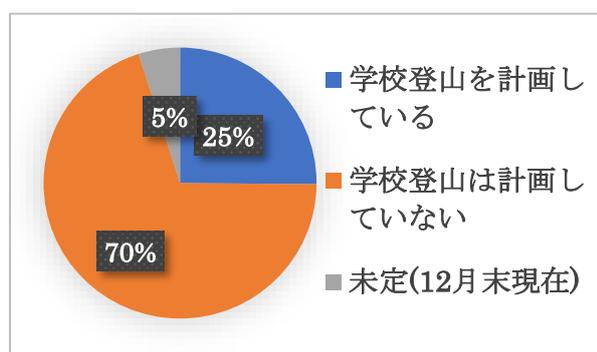


登山を計画した 58 校中、日帰り日程で登山を計画した学校は 45 校、78%。宿泊日程で登山を計画した学校は 13 校、22%。

山小屋泊登山の 13 校中、登られた山で一番多かった山は、5 校が登っている硫黄岳。

登る学校が一番多かった木曾駒ヶ岳は、1 校のみが山小屋泊。他の 11 校は、日帰り登山の日程で計画されていた。

## 4. 来年度、学校登山を計画しているかどうか



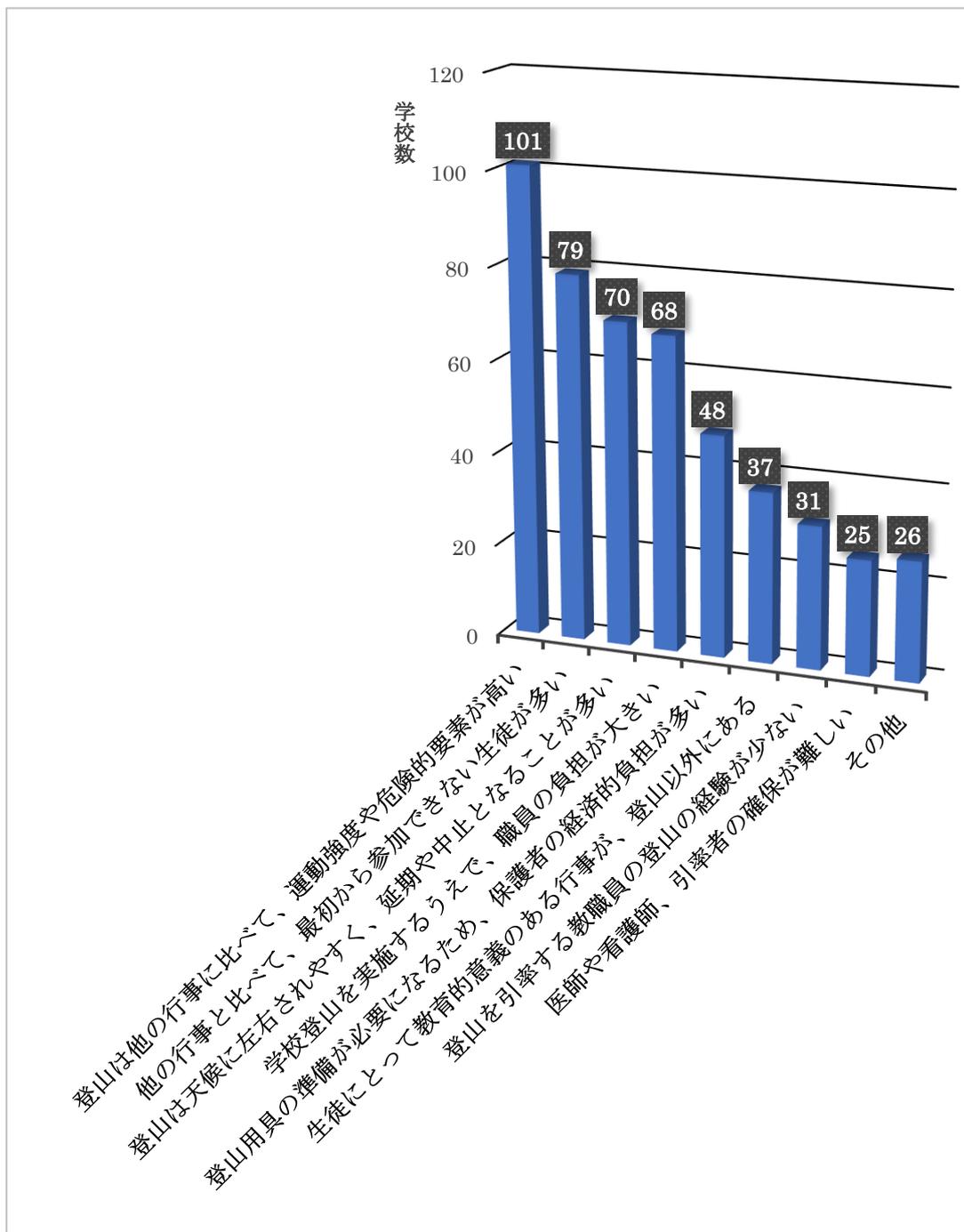
来年度 2025(令和 7)年度に学校登山を計画している学校は、46 校、25%で、計画していない学校は、128 校、70%。

12 月末現在で未定の学校は、9 校、5%だった。

## 5. 学校登山を実施していない理由や、実施するうえで苦勞していること

学校登山を実施していない学校においては、「実施していない主な理由」を、学校登山を計画している学校においては、「実施するうえで苦勞している主なこと」を、あてはまる上位3つの選択肢から選んで答えてもらった結果が次のグラフの通り。

その他の選択肢を選んだ場合は、具体的にその内容を記入してもらった。



「その他」として書かれたもの 26 件については、以下のように山岳センターで分類した。

尚、基本的には記入された文面の通りとしたが、学校名が特定できる場合は、文章を一部変更してある。

#### 【教育課程上の問題】

- ・学校行事精選のため
- ・小規模校のため、1・2 学年の連学年の行事としており、登山と臨海学習を交互に実施している
- ・学年行事を総合的な学習（探究）と関連付けて設けているため
- ・登山を実施する時間を確保できない
- ・2020 年度から、隔年実施となっているため、本年度は実施していません。持続可能な登山とするため、来年度からコミュニティースクール主催の登山とし、夏休み中に実施の予定。生徒職員、希望者の参加とする
- ・閉校を控え対象生徒が少なく、地域学習等に時間を使うため
- ・隔年実施のため、また、近隣校と合同行事も視野に検討中のため
- ・R8 の閉校にあたり、R7 は 2，3 学年のみとなり、2 学年のみの行事を別に設定するため

#### 【生徒や教師の問題】

- ・健康面や体力面の理由で全員が参加できない登山は学校行事としてふさわしくない
- ・生徒の体力面の低下、職員の高齢化と体力的な負担の影響
- ・健康上の理由で登山の引率が難しい教員が多い
- ・生徒や職員の健康状態を考え、山頂ではなく、途中までとした。しかし、当日の天候により、もっと手前で引き返すこともある
- ・女子生徒の対応ができる女性引率職員の確保

#### 【家庭の問題】

- ・登山用具を準備することができないため
- ・小規模校のため、宿泊行事の連続による保護者の経済的負担
- ・保護者の費用負担が大きくなり、どのようにして軽減するか他の行事と併せて考える必要がある
- ・物価高の中、中学 3 年間を通した家庭の費用負担軽減の必要性から

#### 【その他の問題】

- ・長野県は世界的にも山岳観光資源が豊富であり、中学校の集団登山は地域を愛好する心情や自然への畏敬の念を育てる教育的意義がとても高いと思っています。そんな長野県を誇りに思いながら日々、子どもに関わっています。しかし反面、生徒の実態が多岐にわたること、緊急対応の難しさ、保護者の経済的負担、教職員の負担の大きさなど、学校だけでの引率や行事展開の困難を感じています。単発の行事としての扱いからカリキュラムマネジメントの視点へ、キャリア教育や総合的な学習の一環としての視点、地域との連携強化等、新たな学校登山の方向を模索していく必要があると思います
- ・安全面、地域学習等を観点として考えたとき、適当な山の選定が難しい
- ・年度毎の生徒・職員の入れ替わりが多く、小規模校で職員数も少ないため、緊急時等に対応できづらい
- ・トイレ問題
- ・2 年に一度の学校登山を行っていますが、持続可能な登山を考えるにあたり、来年度より学校運営委員会に企画運営をお願いすることになりました

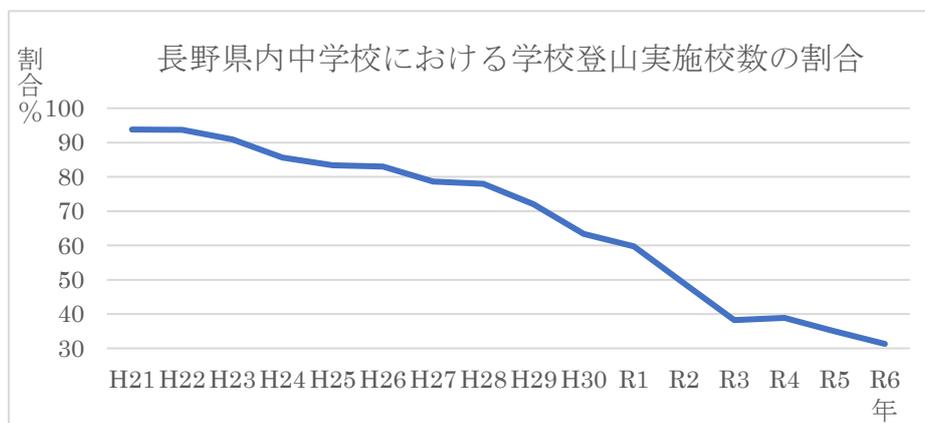
- ・登山を実施していた山道が、現在は閉鎖されているため
- ・赴任した際、すでに登山がなかったため理由は不明
- ・過去には登山を実施していたが、実施しなくなった経緯がある
- ・過去に遡って、実施していたと思いますが、今後、登山を実施するか、検討できていません

## アンケート結果の分析及び考察

### 1, 学校登山の実施状況について

当センターが4年前の令和2年度に調査をした結果では、学校登山を計画した学校は188校中93校、率にして49%だった。今回の調査の数字と比較すると、この4年間で、学校登山を計画した中学校は35校少なくなっていることがわかる。

下記のグラフは、長野県教育委員会の資料より引用し、作成したものである。このグラフを見ても、学校登山を実施している学校は、年々減ってきていることがわかる。



「学校経営概要のまとめ 小・中学校編」より

今回の調査で、来年度、学校登山を実施するかどうか未定の学校9校が登山を計画したとしても、学校登山を計画している学校は、今年度よりは少なくなるのは確実である。

また、新型コロナウイルス感染症の流行が拡大して、最初の緊急事態宣言が発令された2020(令和2)年度の計画段階までは、山小屋泊登山を計画する学校が、日帰り登山を計画する学校を上回っていた。しかしその後逆転し、今年度、山小屋泊の登山を計画した学校は、登山を計画した学校のほぼ4分の1まで減少している。

### 2, 学校登山を実施していない理由や、実施するうえで苦労していること

学校登山を実施していない理由および、学校登山を実施するうえで苦労していることを聞いた結果について考えてみる。

8つの選択肢の中で多かった上位4つは、

- ①「登山は他の行事に比べて、運動強度や危険的要素が高い」
- ②「他の行事と比べて、最初から参加できない生徒が多い」
- ③「登山は天候に左右されやすく、延期や中止となることが多い」

#### ④「学校登山を実施するうえで、職員の負担が大きい」

この中で、過半数以上の学校が選んだのは、①「登山は他の行事に比べて、運動強度や危険的要素が高い」である。

自然体験活動、とりわけ登山は、山という自然を相手にする体験がゆえに、引率者は、自然環境についての知識や登山の基本的な知識、技術を学ぶ必要がある。先生方がこのような内容について学ぶ機会を、今まで以上に、各機関が連携して用意すると良い。

4割近い学校が選んだ③「登山は天候に左右されやすく、延期や中止となることが多い」も、自然体験活動にはついて回ることであり、安全を最優先して、中止という判断も致し方ない場合もある。山に行けなくても、山を学ぶ機会となるような雨天時案を用意することも一つの方法である。

例えば、山岳センターでは、市立大町山岳博物館の見学と、山岳センターでのボルダリング体験を組み合わせたプログラムを提案しており、雨天時に利用した例もある。

同じく4割近い学校が選んだ②「他の行事と比べて、最初から参加できない生徒が多い」については、できるだけ多くの子どもたちが学校登山にかかわることができる工夫として、下記の事例が参考になると思う。

- ・白馬八方尾根を登る際、体力別に目的地を3か所設定して、八方池、丸山ケルン、唐松岳とした例
- ・一泊二日の登山隊とは別に、日帰り参加のコースを設定した例  
具体的には、一泊二日の爺ヶ岳登山隊とは別に、日帰りで、針ノ木自然歩道を歩いて、山腹にある大沢小屋まで行く班を設けた
- ・総合的な学習の時間の中で、登山前に、山の地形や動植物、山に関わる仕事等についての調べ学習に取り組んだ例

以上の例は、先生方の負担が増える面はあるが、参加できない生徒を減らす工夫例として参考にしていただければと思う。

④「学校登山を実施するうえで、職員の負担が大きい」という点については、学校登山の実施において、地域における団体等が理解と協力をしていく仕組みがあればと思う。

この点については、次代を担う子ども達を社会全体で育てるという観点からも、次の項で、山岳センターの今後の取り組みについて具体的な提案をしたい。

#### **今後、山岳センターが取り組んでいくこと**

今回のアンケートの結果を受けて、学校登山における先生方の負担を少しでも減らし、生徒達がより楽しく安全に登山に取り組むことができるように、今後、山岳センターは、以下の4つの事業について取り組んでいきたい。

##### ①学校登山におけるボランティア窓口窓口の設置

- ・長野県を代表する山岳団体「長野県山岳協会」の協力を得て、教職員のサポートとして登山に同行できる学校登山ボランティアを募る
- ・学校登山ボランティア登録者向けの研修講座を開催する
- ・山岳センターが、ボランティアを必要としている学校と、登録者をつなぐ役割を担う

##### ②県総合教育センターと協力して、教職員向けの登山研修講座を開催

2025(令和7)年度は、以下の日程で開催する

- ・5月23日(金)、学校登山引率者向けの研修講座「登山の引率 はじめの一步」を開催する
  - ・8月7日(水)、登山の基礎的知識や技能を実践的に身につけることを目的とした研修講座「信州の山で学ぼう～硫黄岳 2,760m～」を開催する
- ③学校登山実施に向けた事前学習への職員の派遣及び登山相談への対応
- ・希望がある学校に対して、事前学習の講師として職員を派遣する
  - ・目的とする山や登山についての相談に対応する
- ④学校登山における安全対策装備の貸し出し
- ・無線機、ツェルト(簡易テント)、トイレ用テント等の装備を貸し出しする

## 最後に

信州の山々は、山岳県・長野に住む子どもたちにとって、単に眺める存在だけではなく、自然体験や社会体験などの活動を充実させる貴重なフィールドであるのではないだろうか。そして、過去の調査からもわかるように、学校登山は、子どもたちの自己肯定感を高めることができる場でもあるといえる。

教育的にも意義のある学校登山が、子どもたちにとって楽しい思い出として残る行事となるよう、山岳センターとして今まで以上に支援をしていきたい。

最後に、お忙しい中、今回の調査に協力いただいた県内 183 校の中学校に心よりお礼申し上げます。

## (追記)

[山岳センターのホームページ](#)で公表している学校関係の資料

- ① [近年実施した「意識調査」](#) (1 ページ文中※)
- ・2014(平成 26)年「長野県の中学校登山における生徒の意識調査」
  - ・2015(平成 27)年「学校登山における生徒の意識に関する調査結果と考察  
～山小屋泊登山と日帰り登山の比較を中心に～」
  - ・2016(平成 28)年「学校登山における生徒の意識に関する調査結果と考察  
～登山前と登山後の生徒の意識の比較を中心に～」
  - ・2019(令和元)年「学校登山における生徒の意識に関する調査結果と考察  
～登山実施前と登山後の自己肯定意識の比較をもとに～」
  - ・2023(令和 5 年)「中学校登山 [生徒意識アンケート調査](#)」
- ② 動画「学校登山～120 年の歴史を未来へ～」
- 山岳センターでは、学校登山をテーマにした[動画「学校登山～120 年の歴史を未来へ～」](#)を制作し、[動画投稿サイト YouTube](#) で公開している。
- 多くの方に視聴していただき、学校登山について考えてもらう機会となることを希望する。